

新規・継続等	新規	分野	人家等に対する地すべり対策 緊急傾斜地崩壊対策	事業番号	11	事業名	地すべり対策				
市町村名	白馬村		ふりがな 箇所名	くさした 倉下		事業年度 (完了年度は見込み)	H23	年度～	H26	年度	
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	集水井 6基、集水ホ-リング L=1,800m、排水ホ-リング L=300m					H22年度末事業進捗率	0%			
	H23年度以降残実施内容	同上					本工事費等ベース	0%			
	H23年度実施内容	調査ホ-リング L=140m、機構解析・安定計算 1式					用地補償費ベース	0%			
	年度	全体事業費	H21年度まで	H22年度	H23年度	H23年度以降残					
	事業費計(千円)	300,000	0	0	15,200	300,000					
財源内訳	国庫支出金	150,000	0	0	7,600	150,000					
	その他										
	県債	135,000	0	0	6,000	135,000					
	一般財源	15,000	0	0	1,600	15,000					
箇所評価	観点	評価項目・指標等	評価			部 ランク	部 評価点	政策評価課 ランク	政策評価課 評価点		
	必要性 (20)	保全対象人家	10戸以上	1～9戸	0戸未満	A	8	A	8		
		保全対象公共施設	2箇所以上	1箇所	なし		5		5		
		保全対象に弱者施設があるか	重要施設	一般施設	なし		0		0		
		土砂の河川への流入量	10万m3以上	1万～10万m3	1万m3未満		4		4		
			なし				0		0		
	小計					17		17			
	重要性 (10)	交通遮断による地域経済などへの影響	大	中	小	A	7	A	7		
		防災計画上の位置づけ	位置付けあり	位置付けなし			3		3		
		小計							10		10
	効率性 (10)	費用対効果(B/C)	B/C1.5以上	B/C1.0以上1.5未満	B/C1.0未満	A	4	A	4		
		早期発現度	5年未満	5年～10年	10年以上		4		4		
		代替案の検討	あり	なし			0		0		
		小計							8		8
	緊急性 (50)	地すべり活動度	顕著な動きがある	軽微な動きがある	動きなし	A	35	A	35		
		地すべり変状	変状あり	変状なし			15		15		
		小計							50		50
	計画 熟度 (10)	地元の協力	反対意見なし	反対意見あり		A	5	A	5		
		地域からの要望	高い	それほど高くない			5		5		
		小計							10		10
費用対効果(B/C)		15.24	評価の合計			A	95	A	95		
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本地域は、中生代来馬層頁岩、砂岩、泥岩と第四紀溶結凝灰岩を基岩とする地域内にあり、地形的には明瞭な馬蹄形をなしている。地域内には2本の断層が有り、この影響により非常に複雑な破碎を受けている。このため、融雪期や降雨期に地すべりと関係があると思われる変状が見られる。地すべり区域内には多くの民家や村道、又、下流保全区域には国道・県道等の交通機関及び学校など重要な施設が存在している。今後この土砂が流出すると下流保全対象に莫大な被害が予想されるため対策工を施行し、民生の安定を図りたい。									
	地域からの要望経緯	平成21年白馬村長により事業要望あり。									
	事業説明等の経緯	白馬村と協議済み。区への説明会は平成23年度調査開始時に実施予定。									
	環境・景観への配慮項目	地すべり防止施設は地中構造物であり、環境への負荷は少ないと思われる。また、当箇所にはクララ(環境省レッドリスト絶滅危惧種のオオルリシジミの食草)が確認されているため、施設設置箇所に生息が確認された場合には地元有識者ととも移植作業を実施するなど、入念な環境配慮を行いながら施工を行う。									
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし									
	特記事項	地元住民の意見を設計に反映していく。									
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他						
部意見	平成21年7月の豪雨で地すべりが発生した。次期降雨により地すべり活動が更に活発化する可能性があることから、緊急性が高い。				政策評価課 意見	重要性、緊急性が高く、必要性も認められる。					